

2024年12月期
通期決算説明資料



2025年2月21日
株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
証券コード：4576

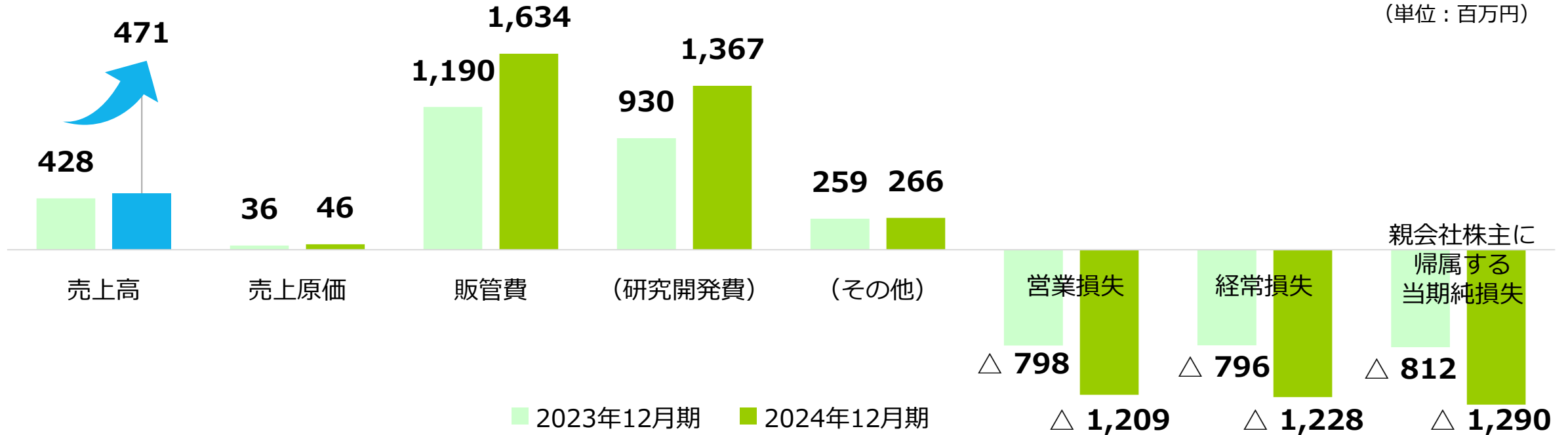
1. 2024年12月期 通期業績
 2. 2024年12月期 事業進捗
 3. 2025年12月期 見通し
- (参考) 事業概要

1. 2024年12月期 通期業績

2024年1月1日～2024年12月31日

連結損益計算書（対前期比）

（単位：百万円）



【売上高】

- 9月にグラナテックの国内ロイヤリティ収入がなくなったものの、DW-1002の伸長により直近5年で最高の売上高となり、前期比10.1%増。
- 個別には、DW-1002は数量の増加及び円安の影響により前期比21.0%増。グラアルファも順調に伸長し、前期比74.9%増。

【研究開発費】

- H-1337の米国P2b及びDWR-2206の開発費用の増加により、前期比47.0%増。

連結損益計算書（対通期予想比）

（単位：百万円）

	2023年 12月期	2024年12月期			主な要因（対通期予想）
	通期実績	通期予想 (2/9公表)	通期実績	対期初 予想達成率	
売上高	428	400	471	17.9%	<ul style="list-style-type: none"> DW-1002、グラアルファのロイヤリティ収入好調 グラナテック（日本）は9月ロイヤリティ終了も配合剤の影響少なく、収入好調
販売費及び一般管理費	1,190		1,634		
研究開発費	930	1,600	1,367	△14.5%	<ul style="list-style-type: none"> DW-5LBTの支払マイルストーン支払未発生 H-1337が見込みより少なかった
その他販売費及び一般管理費	259		266		<ul style="list-style-type: none"> 概ね計画通り
営業損失	△798	△1,500	△1,209	—	
経常損失	△796	△1,510	△1,228	—	
親会社株主に帰属する 当期純損失	△812	△1,510	△1,290	—	<ul style="list-style-type: none"> 転換社債の繰上償還による特別損失60百万円

連結貸借対照表

2024年12月末（対前期末比増減）

（単位：百万円）

	流動負債
	132 (△61)
現預金	固定負債
1,126 (△741)	802 (△96)
売掛金 125 (+7)	純資産
その他流動資産	733 (△545)
224 (+70)	
固定資産 194 (△41)	

【現預金】

- 主に研究開発費等の使用による減少
- 第12回新株予約権の行使による増加あり

【その他流動資産】

- H-1337、DWR-2206開発にかかる前渡金の増加、未収消費税の増加

【固定資産】

- DW-1002（欧州）の契約関連無形資産の償却41百万円

【流動負債】

- H-1337、DWR-2206開発費用の支払による未払金の減少76百万円
- 1年内返済予定の長期借入金の増加9百万円

【固定負債】

- 社債発行660百万円にて転換社債償還606百万円、更に新株予約権行使により社債償還357百万円
- DWR-2206開発費用の融資による長期借入金の増加206百万円

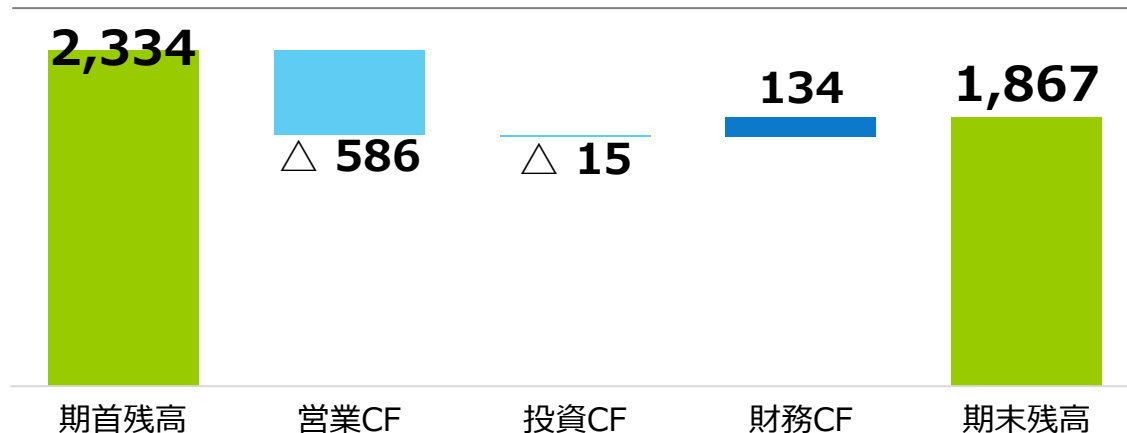
【純資産】

- 当期純損失1,290百万円の計上
- 新株予約権行使等による資本金、資本準備金各371百万円の計上

連結キャッシュ・フロー計算書

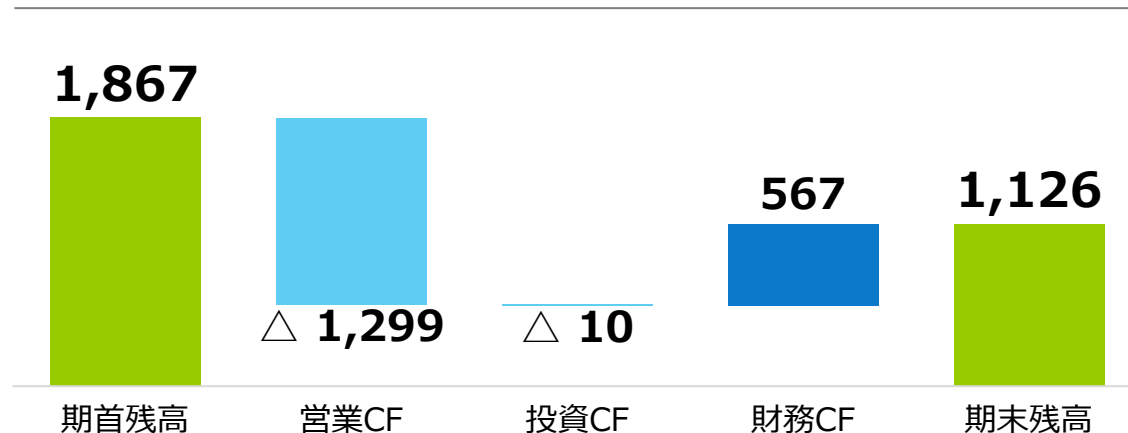
2023年12月期

(単位：百万円)



2024年12月期

(単位：百万円)



【営業CF】

- 税金等調整前当期純損失△1,288百万円

【投資CF】

- 有形固定資産の取得による支出△9百万円

【財務CF】

- 新株予約権の行使による収入710百万円、社債の発行による収入660百万円、長期借入れによる収入226百万円、
- 転換社債の償還による支出△666百万円、社債の償還による支出△357百万円

手元流動性は、現預金のみ（有価証券なし）の1,126百万円

【第12回新株予約権 行使状況】

- ✓ 行使株式数 9,350,000株（71.9%）
- ✓ 累計調達額 727百万円

（2024年12月末時点）

※本新株予約権は、2025年2月7日に行使完了いたしました（35頁ご参照）

2. 2024年12月期 事業進捗


2024年12月期通期 パイプラインの現況

上市品	地域	現況
グラナテック（単剤）	日本・アジア	日本は9月ロイヤリティ終了
グラアルファ（配合剤）	日本・アジア	国内販売好調、タイ承認
DW-1002（単剤）	欧州・米国等	販売好調
DW-1002（配合剤）	欧州等	〃

開発品	地域	現況	
K-321	米国等	グローバルP3実施中	
DW-1002	配合剤	米国	
	単剤	中国	当局による審査中、 2025年2月19日承認取得
		日本	申請に向けて当局と交渉・検討中
DW-1001	日本		
H-1337	米国	8月P2b患者投与完了、11月トップラインデータ公表	
DW-5LBT	米国	1月再申請、7月CRL受領	
DWR-2206	日本	3月P2治験計画届書提出、12月患者投与完了	

期初に見込んでいたイベントの達成状況

H-1337

米国 P 2 b トップラインデータの公表  **達成** 結果良好

DW-5LBT

米国再申請～承認取得、上市  **未達** CRL受領、再申請の対応中

DWR-2206

国内 P 2開始  **達成** 被験者への投与も完了

DW-1002

中国承認取得～上市と日本申請  **未達**

⇒2025年2月19日承認取得

新規プロジェクト

研究進捗
(新たなコラボレーションを含む) ⇒複数の共同研究が進行中

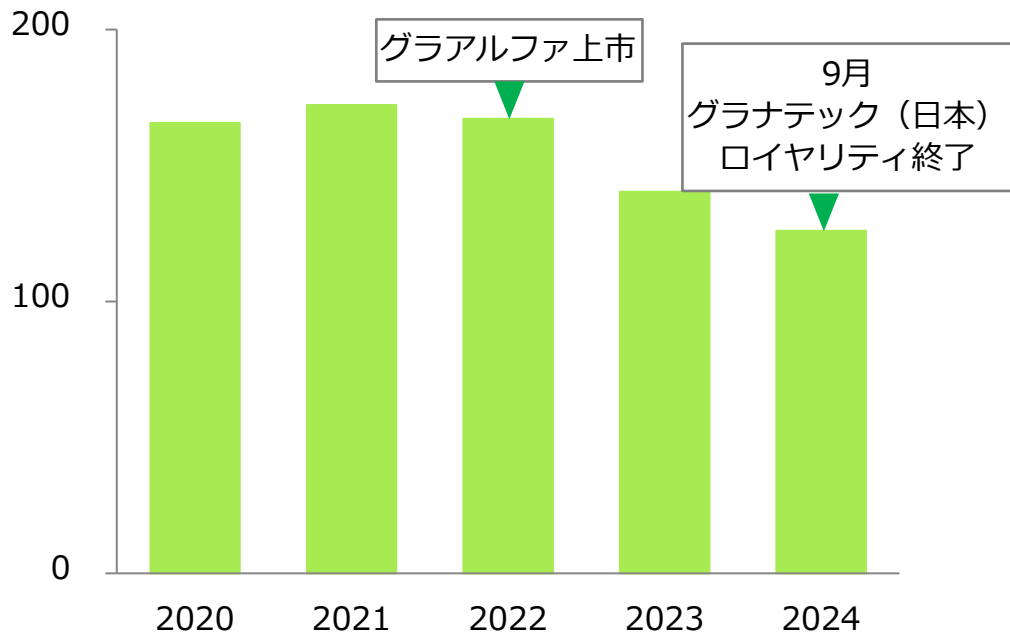
2-1. 上市品



緑内障治療剤 リバスジル塩酸塩水和物

(単位：百万円)

当社ロイヤリティ推移
(単剤・配合剤合算)



グラナテック®点眼液0.4%

- ✓ 日本の単剤ロイヤリティは2024年9月終了
- ✓ 海外は僅少あり

グラアルファ®配合点眼液

リバスジル塩酸塩水和物とブリモニジン酒石酸塩との配合剤

- ✓ 前年比大幅に増加
- ✓ 海外展開も実施中 (承認：2024年12月タイ、申請：2024年2月シンガポール、4月マレーシア、その他アジア地域も申請準備中)
- ✓ 【国内】ピーク売上予想81億円
(興和の売上高：販売開始10年後、患者数23万人)

- ✓ グラアルファのロイヤリティは、順調に増加
2024年12月タイ承認取得
- ✓ グラナテックの国内ロイヤリティは、2024年9月終了
⇒全体のロイヤリティは減少

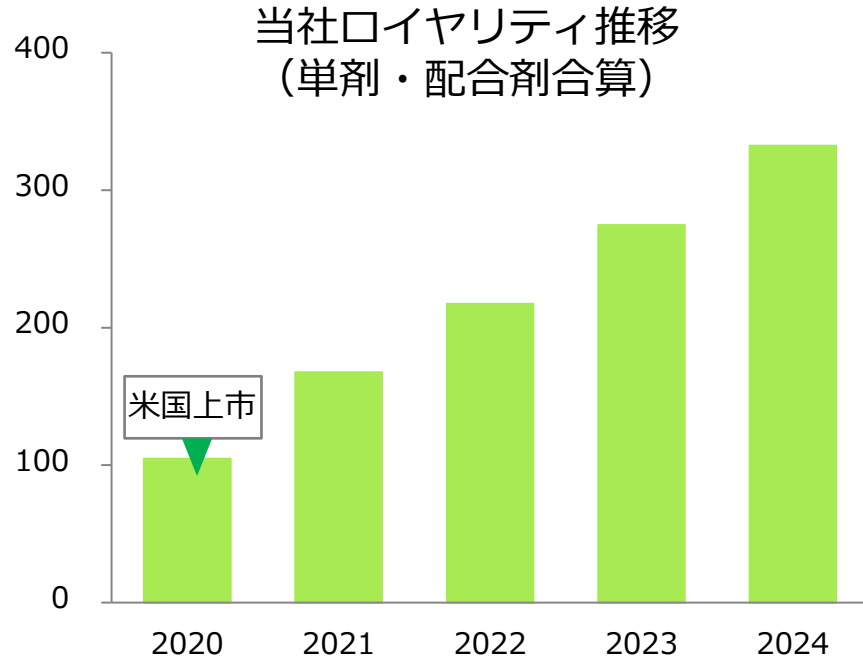
日本の市場

- 2022年度：約915億円※
- 配合剤の利用は増加傾向

※厚生労働省「第9回NDBオープンデータ」を基に弊社算出

眼科手術補助剤 DW-1002 (ブリリアントブルーG)

(単位：百万円)



ILM-Blue[®]、TissueBlue[™]

ブリリアントブルーGという染色性の高い色素を主成分とした眼科手術補助剤

特徴

- 内境界膜の可視化が可能 (薄さ約0.003mm)
- 糖尿病網膜症や黄斑円孔等の硝子体手術時に使用



MembraneBlue-Dual[®]

ブリリアントブルーGとトリパンプルーの配合剤

特徴

- 内境界膜、網膜上膜及び増殖硝子体網膜症における増殖膜を染色
- 増殖性硝子体網膜症等の硝子体手術時に使用

✓ **販売好調、数量増加及び円安の影響により、前期比 +21.0%増**

✓ 単剤 (中国・日本)、配合剤 (米国) の上市を計画

✓ 2025年12月に主要国の特許満了、米国特許は延長済み (2031年3月まで)、2026年以降は特許満了の影響を受けてロイヤリティ減少を見込む

✓ 国内は独占的ノウハウライセンス条項付製品供給契約により影響無し

推定手術件数

欧州
10万件/年*

米国
20万件/年*

※当社調べ

2-2. 開発パイプライン

開発パイプライン

開発品		対象疾患	地域	非臨床	P1	P2	P3	申請	承認	上市	ライセンスアウト先
K-321	リパスジル 塩酸塩水和物	フックス角膜内皮変性症	米国・欧州等	▶							興和
DW-1002	ブリリアントブル ブルーG (BBG)	内境界膜染色	中国	▶							DORC
		日本	▶								わかもと製薬
	水晶体前囊染色	日本	▶								
	BBGとトリパン ブルーの配合剤	内境界膜及び網膜上膜染色	米国	▶							DORC
DW-1001		眼科用治療剤（非開示）	日本	▶							ロート製薬
H-1337		緑内障・高眼圧症	米国	▶							自社開発
DW-5LBT		帯状疱疹後の神経疼痛	米国	▶							メドレックスと共同開発
DWR-2206		水疱性角膜症	日本	▶							アクチュアライズと共同開発

□ ……眼科疾患のパイプライン

フックス角膜内皮変性症 K-321

→グローバルP3実施中
 患者登録に時間を要しており、終了時期は
 2025年12月までに変更
 申請は2026年末～2027年の見込み（当社予想）

適応拡大 リパスジル塩酸塩水和物

- ✓ 2023年3月、4月グローバルP3試験開始
- ✓ 上市後、データ保護期間終了までロイヤリティを受領※
 ※単剤と実施料率は異なる

PⅢ試験

識別子※	NCT05528172 試験完了	NCT05795699	NCT05826353
概要	白内障手術後の患者	デスメ膜剥離手術予定のフックス角膜内皮変性症患者に術後投与	デスメ膜剥離と白内障の同時手術予定のフックス角膜内皮変性症患者に術後投与
症例数	331名	100名	100名
期間	2022年8月～2023年6月	2023年3月～ 2025年12月	2023年4月～ 2025年10月
開発地域	米国	米国・欧州等	米国・欧州等

※ClinicalTrials.gov Identifier、<https://www.clinicaltrials.gov/>より

欧州
約16百万人※1

米国
約6百万人※2

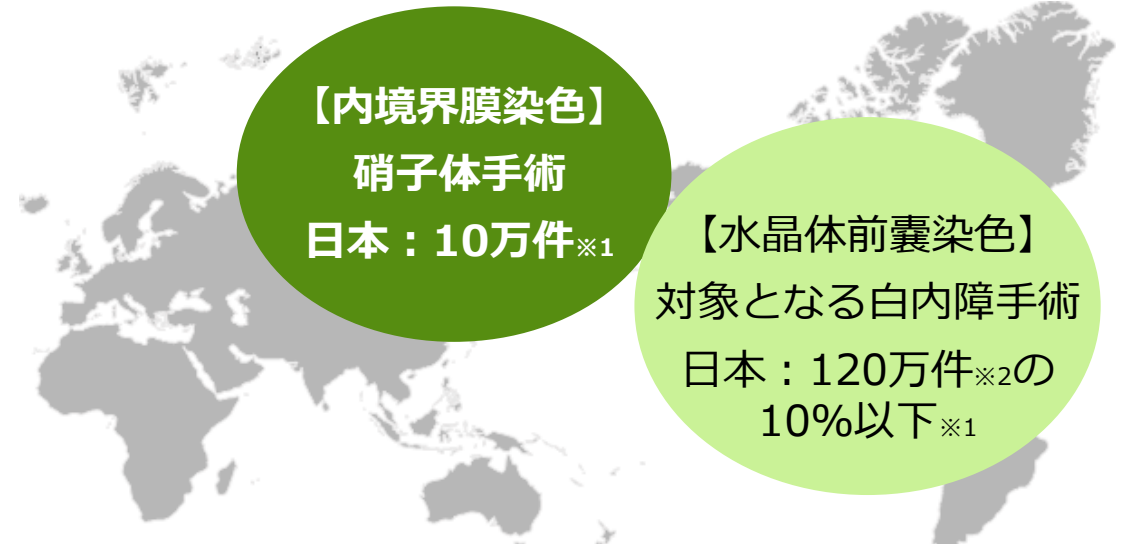
フックス角膜内皮変性症：
 角膜内皮障害を起こす進行性の疾患で、角膜浮腫と混濁によって視力低下をきたし、水疱性角膜症に至る。

※1 United Nations 「World Population Prospects 2022」より40歳以上の人口を当社計算し、罹患率4%（※2）を掛けた数値。
 ※2 Moshirfar M et al. Fuchs Endothelial Dystrophy. Treasure Island (FL): StatPearls Publishing; 2021.

眼科手術補助剤 DW-1002

→ **2025年2月19日、中国承認取得**
日本、米国いずれも申請・承認に
向けて引き続き活動中

- ✓ 中国：2025年の販売開始を計画、医療機器扱い
- ✓ 日本：米国承認データの利用について規格・品質に関する課題
- ✓ 米国：FDAより小規模試験実施の指示有



※1：当社調べ（関係者等へのヒアリングによる）
 ※2：令和元年社会1医療診療行為別統計，厚生労働省，令和元年6月審査分

【開発計画】

適応症		地域	ライセンスアウト先	～P3	申請	承認	上市
内境界膜染色	単剤	中国	DORC			2025	
内境界膜染色、 水晶体前囊染色	単剤	日本	わかもと製薬(※)		2025	2026	2027
内境界膜及び 網膜上膜染色	配合剤	米国	DORC		2026	2027	

※当社予想に基づく開発計画です。

緑内障治療剤 H-1337 第二選択薬のFirst Choice

→P2b試験のトップラインデータは
良好な結果、
P3試験へ進められると判断

✓ 2023年8月患者投与開始

✓ **2024年8月投与完了**

→11月、トップラインデータ結果公表

自社開発品



特徴

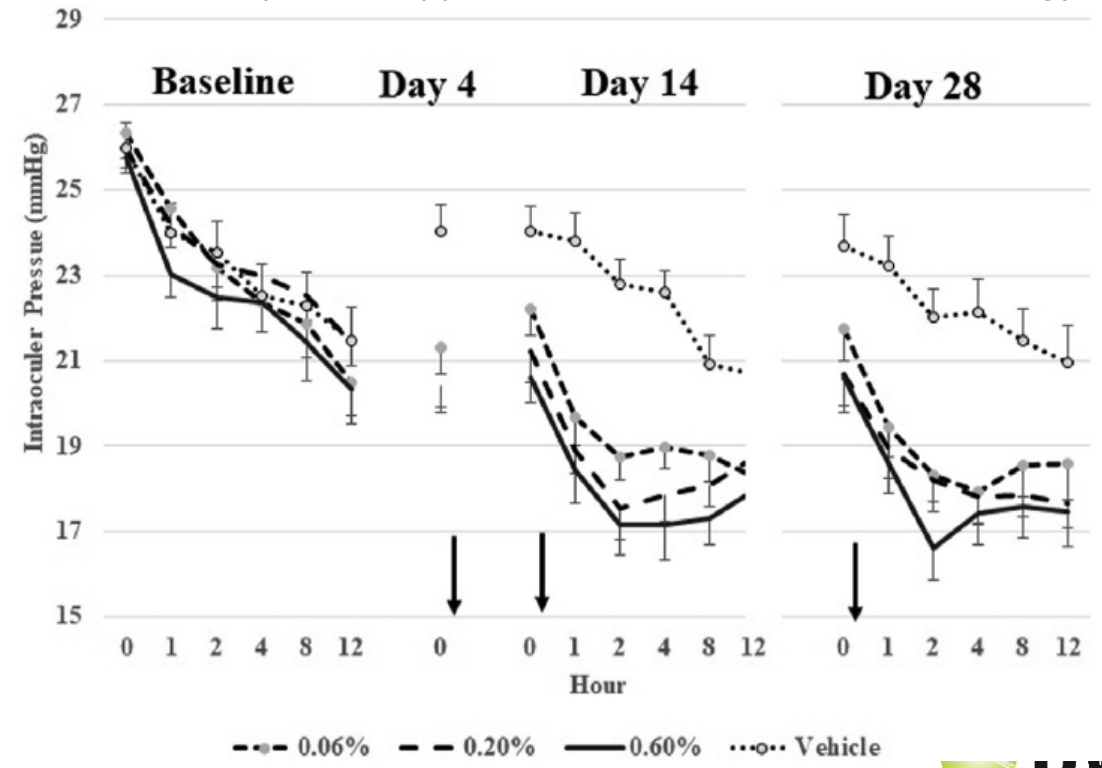
- P1/2a試験により有効性及び安全性を確認 (臨床POC取得、 $p < 0.0001$)
- 線維柱帯-シュレム管を介して房水流出を促進
- マルチキナーゼ阻害剤

米国P1/P2a結果 (試験期間 2018年3~9月、87症例)

有効性 3群 (0.06%, 0.2%, 0.6%) でプラセボに対して眼圧下降効果あり

安全性 軽度の紅斑がみられたものの十分な忍容性あり

IOP : Mean (\pm s.e.m)(intent-to-treat population, mmHg).



H-1337 米国P2b試験の概要

✓ 本試験における事業上の戦略は、以下を企図。

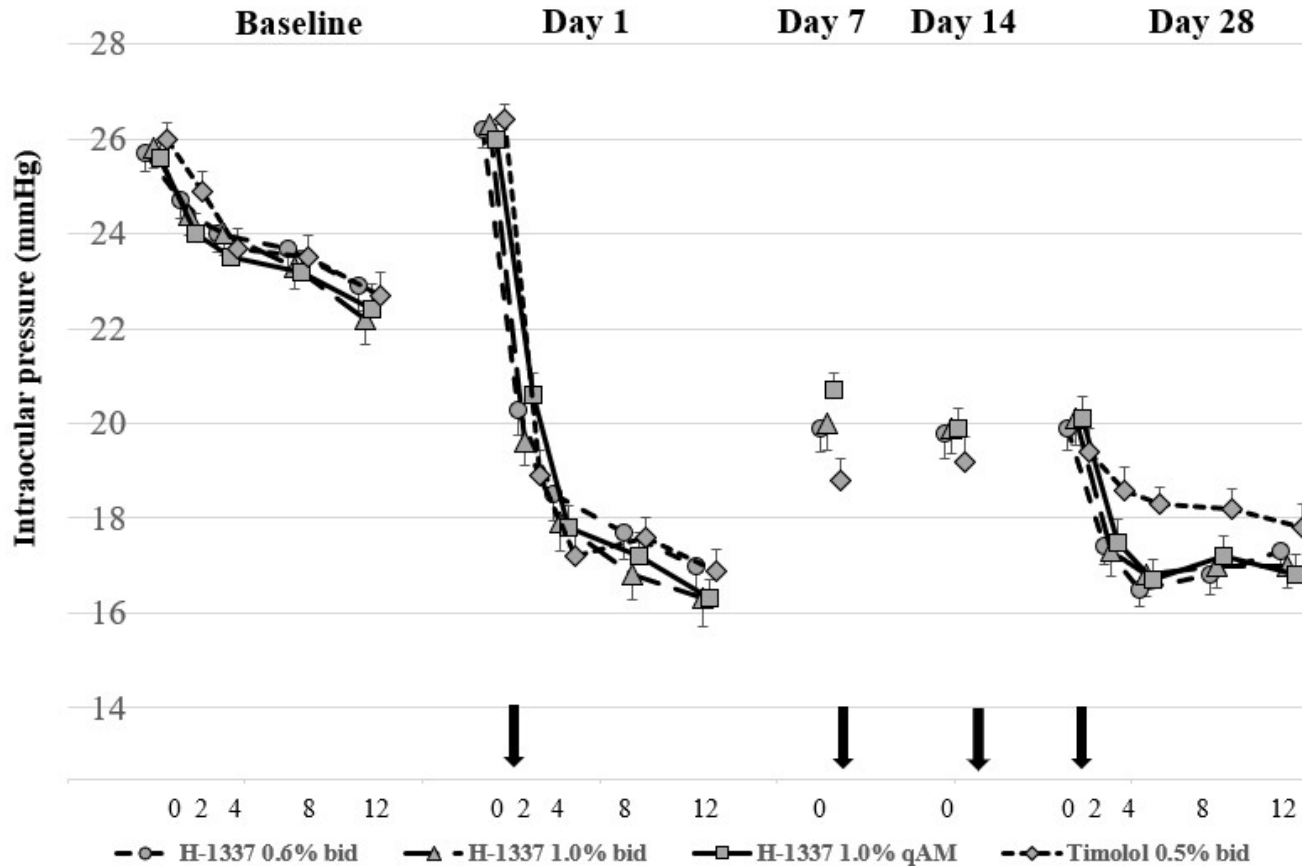
- 濃度引き上げによる最大眼圧下降効果
- 1日1回点眼による眼圧下降効果
- 濃度引き上げによる安全性

試験概要	多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照の用量設定試験 緑内障・高眼圧症患者を対象に、H-1337の有効性と安全性を検証				
用法・用量	H-1337 (0.6%)、H-1337 (1.0%)、チモロール：1日2回点眼 H-1337 (1.0%)：1日1回点眼				
症例数	201	投与期間	28日間	投与前の平均眼圧	26mmHg
主要評価項目	眼圧降下作用をチモロールと比較して評価				
副次評価項目	局所眼及び全身安全性を評価				

トップラインデータ結果 2024年11月18日公表

- ✓ 有効性：H-1337の3群ともすべて、有意に眼圧を最大30%低下 ($p < 0.001$)
- ✓ 安全性：結膜充血が発生、ほとんどが軽度で投与中止には至らず

Mean (\pm s.e.m) IOP at Baseline and Clinic Visits over 28 days (mmHg)



有効性	<ul style="list-style-type: none"> • 3群ともチモロールと同等の範囲 • P1/2a試験とも同等の結果 • 1.0% (1日2回) において、28日目の投与後全ての時点では、チモロールと比較して非劣性が示された
安全性	<ul style="list-style-type: none"> • 結膜充血が約半数 (一時的な作用、ROCK阻害剤の特徴) • ほとんどが軽度

※詳細な成績等は、2025年に学会・論文等で発表予定



安全性試験・毒性試験の実施

- ✓ H-1337（1.0%）投与時の眼及び全身の安全性を評価を実施（2024年9月～10月）

【目的】

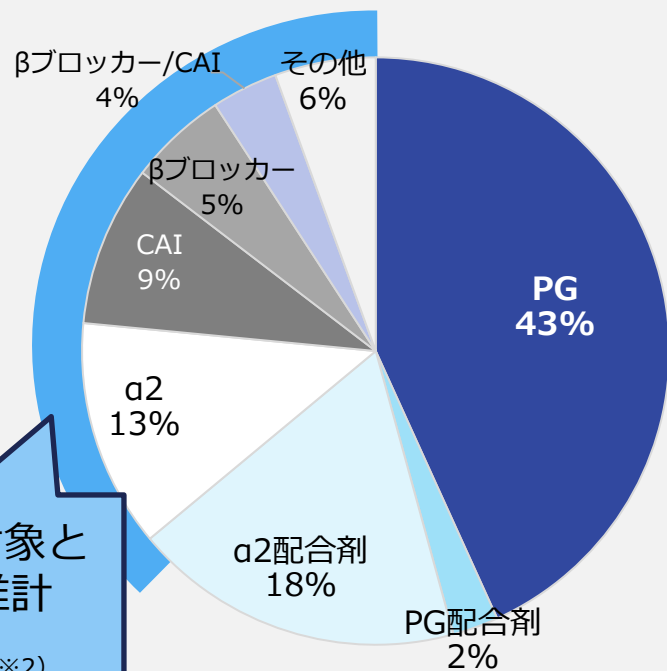
- 活性代謝物H-1337M1が検出されたため、H-1337M1の全身曝露の確認
- P2bの最高用量は1.0%であったため、1.0%におけるヒトの全身曝露の確認

試験概要	健常人を対象に、眼及び全身の安全性を検証		
用法・用量	H-1337（1.0%）：1日2回点眼		
症例数	17	投与期間	7日間

- ✓ P3開始時及び申請までに必要となる毒性試験（非臨床試験）の一部を実施中

H-1337の市場性と競合

米国市場（2020年度：約30億ドル） ※1



H-1337の対象となる市場推計
最大40% (※2)

※1：下記資料を基に当社分類・集計
Copyright © 2023 IQVIA. Source : Calculated based on IQVIA MIDAS Dec 2020 MAT Reprinted with permission
※2：下記資料を参考に当社算出
Journal of Managed Care & Specialty Pharmacy, Vol. 25, No. 9 September 2019, 1001-1014

【第二選択薬としての評価】

	点眼回数/ 眼圧下降値	副作用
H-1337 (ROCK阻害)	1日1回/ 6~7mmHg	<ul style="list-style-type: none"> 充血：43.4% (Phase2b: ~4週) 長期投与の副作用は不明
リパスジル※3 (ROCK阻害)	1日2回/ ~4mmHg	<ul style="list-style-type: none"> 充血：69% 長期投与においてアレルギー性結膜炎・眼瞼炎の発現頻度が高まる傾向
ネタルスジル※4 (ROCK阻害)	1日1回/ ~5mmHg	<ul style="list-style-type: none"> 充血：53% 渦状角膜症：約20%
ブリモニジン※5 (a2受容体作動)	1日3回/ 2~6mmHg	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー性結膜炎、充血、眼搔痒：10~20%
ブリンゾラミド ※6 (炭酸脱水酵素阻害)	1日3回/ 4~5mmHg	<ul style="list-style-type: none"> かすみ目、苦味、酸味：5~10%
チモロール (β受容体遮断)	1日2回/ 4~5mmHg※7,8	<ul style="list-style-type: none"> 気管支喘息の患者には禁忌、全身性の副作用（心血管系・呼吸器系）※9
【参考：第一選択薬】 ラタノプロスト※10 (PG)	1日1回/ 6~8mmHg	<ul style="list-style-type: none"> 虹彩・眼窩周囲組織（眼瞼）の色素沈着、まつ毛の変化 充血：8%

※3: 添付文書 グラナテック点眼液0.4%

※4: Label of RHOPRESSA®

※5: Label of ALPHAGAN®

※6: Label of AZOPT®

※7: Ophthalmology 103 : 138-147, 1996.

※8: Arch Ophthalmol 114 : 929-932, 1996.

※9: Label of TIMOPTIC®

※10: Label of XALATAN®

今後の見通し、展開

【今後の検討事項】

- ✓ P3試験で設定する群構成、用法・用量の検討
 - チモロール非劣性の確認
 - 長期安全性の確認
- ✓ FDAへの相談、P3試験の準備（毒性試験）
- ✓ 自社開発の検討（資金調達）、積極的なライセンスアウト活動

➡ 詳細な開発計画は確定次第、
公表予定

【育薬シナリオ】

- ✓ 米国市場での上市を優先
 - 市場：約30億ドル（2020年度）
 - 市場推計：上記の最大40%
 - 単剤売上300億円を目指す
- ✓ 患者QOLの追求
 - 1日1回点眼剤の開発
 - 服薬コンプライアンスの優先
- ✓ 製品の大型化
 - 適切なパートナーの探索
 - 各国展開、配合剤の検討

再生医療用細胞製品 DWR-2206

→被験者への移植完了、経過観察中

- ✓ 2024年3月、国内P2試験の治験計画届書提出
- ✓ 2024年7月、第一例目移植実施、経過順調

→12月、被験者への移植完了（6症例）

2025年12月末までに評価・観察の終了予定

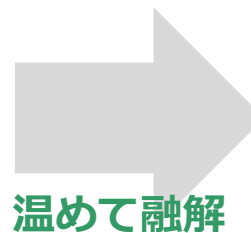
共同開発品



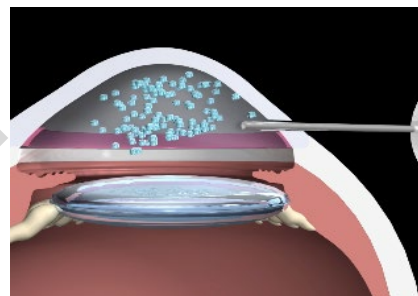
水疱性角膜炎を対象に、培養ヒト角膜内皮細胞を含有した懸濁液を注入し、角膜内皮の再生を行う



凍結角膜内皮細胞製剤



温めて融解



前房内に注入

P2試験デザイン

2024/6/11 jRCT公表

(jRCT2043240040)

概要：

- 多施設共同非遮蔽非対照試験：水疱性角膜炎患者を対象に、DWR-2206の安全性と有効性を検証

目標症例数	6
評価・観察期間	治験製品移植後48週
主要評価項目	有害事象及び因果関係の否定できない有害事象の発現例数及び発現率（%）
副次評価項目	<ul style="list-style-type: none">• 安全性評価項目に対する観察・評価• 重要な有害事象の発現例数及び発現率（%）• 治験製品移植後24週の視力改善の有無• 最高矯正視力の経時的変化• 角膜厚の経時的変化• 角膜内皮細胞密度の経時的変化

DWR-2206の市場性と開発計画

日本の状況

水疱性角膜症
7,000~10,000人※1

移植待機者数
10,000~20,000人※2

水疱性角膜症：
フックス角膜内皮変性症を含む様々な角膜内皮障害の末期状態。
白内障や緑内障手術後のダメージ等でも発症。

※1：厚労省資料、※2：当社調べ

(ご参考) 主要な競合品

ビズノバ®

	培養ヒト角膜内皮細胞
移植細胞	培養ヒト角膜内皮細胞
社名	Aurion Biotech
ステージ	JP: 上市【薬価：9,464,500円】 US: P I / P II

市場規模予測（ピーク：6年目） ※厚労省資料より
 ・当医療機器使用患者数：160人
 ・予測販売金額：約15億円

【開発計画】

	非臨床	P2	P3	申請	
日本		2024	2025	2026	2027

- ✓ 日本は、通常試験を実施（早期承認制度は使わず）

	臨床試験		
中国	2025	2026	2027

- ✓ 中国は、2025年から臨床試験開始を計画
- ✓ 開発の主体は、中国ArcticVision（バイオベンチャー）
- ✓ 当社はアクチュアライズが受け取る収益（マイルストーン収入等）の一部を受領

神経疼痛治療薬 DW-5LBT

→CRL受領、再申請に向けて対応中

- ✓ 2024年1月、再申請
- ✓ 2024年7月、審査完了報告通知（CRL）受領
→追加解析を実施し、再申請を目指す方針

共同開発品

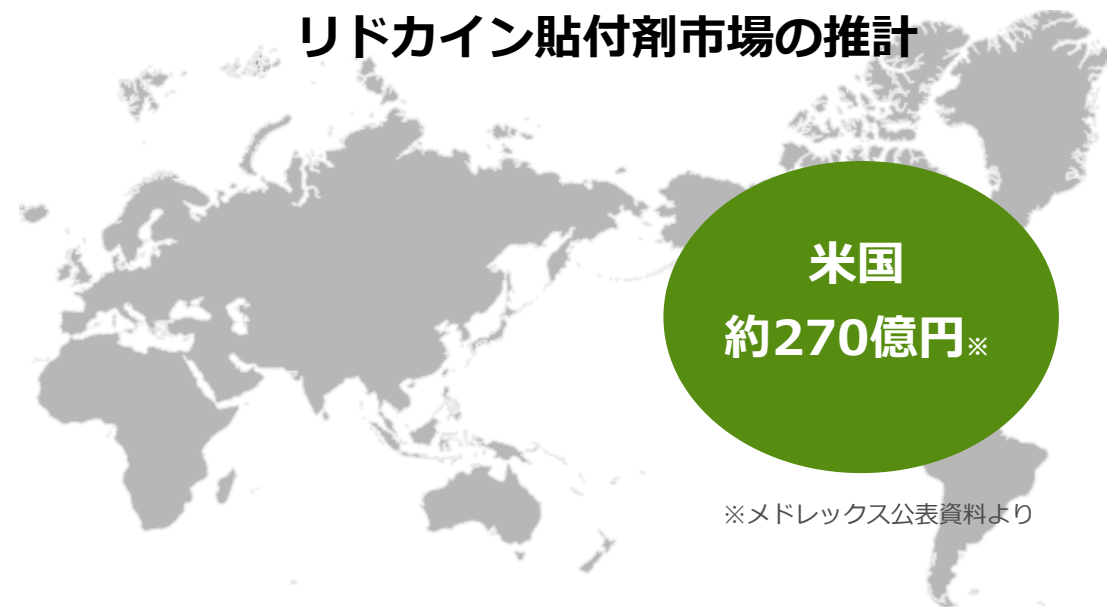


帯状疱疹後の神経疼痛を対象にしたリドカインテープ剤

特徴

- 先行指標製品Lidoderm®との検証的な比較臨床（生物学的同等性）試験に成功
- 「皮膚刺激性が少なく」「粘着力に優れ」「運動時においても粘着力を保持できる」

リドカイン貼付剤市場の推計



※メドレックス公表資料より

【開発計画】

	再申請	承認	上市
米国	2025		2026

2024年度の共同研究実績（開示分）



10/17 緑内障手術に関わる画期的な新規点眼剤の開発
緑内障手術は、術後の合併症や経年的な機能不全に至る場合がある

他社品

眼科



11/26 当社化合物を用いたED治療薬の開発検討
動物モデルにおいて有用な成果が得られたため、共同研究を延長

自社品

眼科以外



12/16 ドライアイ治療薬の創製を目指した探索研究
第一工業製薬の創製化合物を用い、ドライアイ治療薬の可能性を評価

他社品

眼科



12/25 眼疾患を対象にした遺伝子治療薬の共同研究
緑内障において視機能改善が期待できる遺伝子治療を評価

他社品

眼科



12/27 当社化合物を用いたがん領域の治療薬の共同研究
新規治療ターゲット因子に焦点をあて、がんへの有効性を評価

自社品

眼科以外



2025/1/28 眼疾患を対象にした治療薬の共同研究
当社化合物等を用い、網膜変性疾患や眼炎症疾患への有効性を評価

自社品

眼科

3. 2025年12月期 見通し

中期経営計画（2020-2024年）

経営テーマ

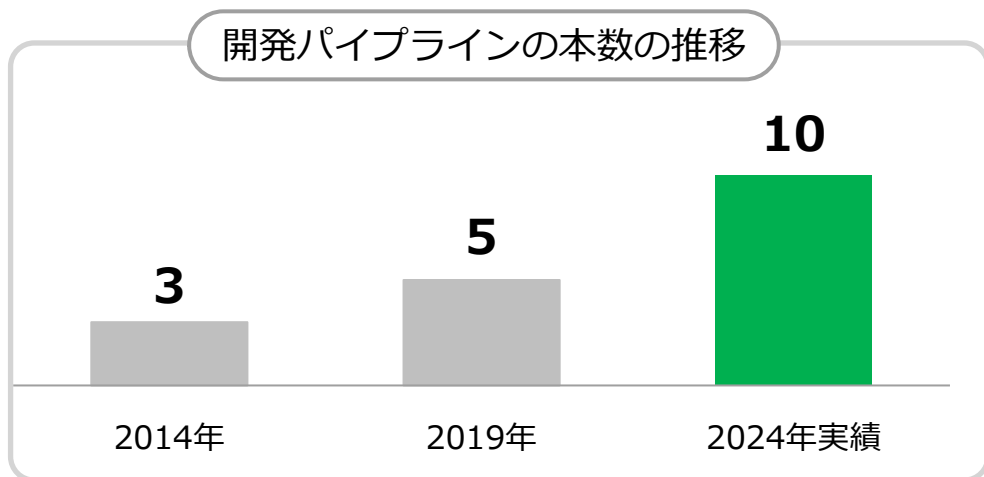
パイプラインの拡充と事業領域の拡大

中期経営計画（2020-2024年）

パイプラインの増加と後期の臨床開発の実施

指標

開発パイプラインの本数の増加：2024年までに10本



5年間の成果

開発パイプラインの拡充

- ◎ 上市品、共同開発品の増加
- ◎ ライセンスアウト済み開発品のステージアップ

事業領域の拡大

- ◎ H-1337の米国P2bの自社開発推進
- ◎ DWR-2206、DW-5LBT共同開発の実施

D. Western Therapeutics Institute

日本発の画期的な新薬を世界へ

POINT 01

眼科疾患

～最適な治療の提供～



POINT 02

基盤技術

～深化と拡充～



POINT 03

市場性

～戦略的な市場の選択～



<取組方針>

- 3つの成長ドライバーを活用し、当社ノウハウの価値最大化を目指す
 - 最適な治療手段の提供（新規モダリティの取込）
 - 基盤技術の活用
 - 眼科アンメットメディカルニーズ

	眼科	眼科以外
キナーゼ阻害剤 or 自社技術利用品	  九州大学 KYUSHU UNIVERSITY	 名古屋市立大学 NAGAOYA CITY UNIVERSITY  北里大学 KITASATO UNIVERSITY
新規モダリティ or 他社品	 RaQualia innovators for life  第一工業製薬  東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO 公益財団法人 東京都医学総合研究所 Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science	<p>* これ以外にも複数の共同研究を進行中</p>

2025年12月期通期連結業績予想 (2025年2月10日公表)

(単位：百万円)

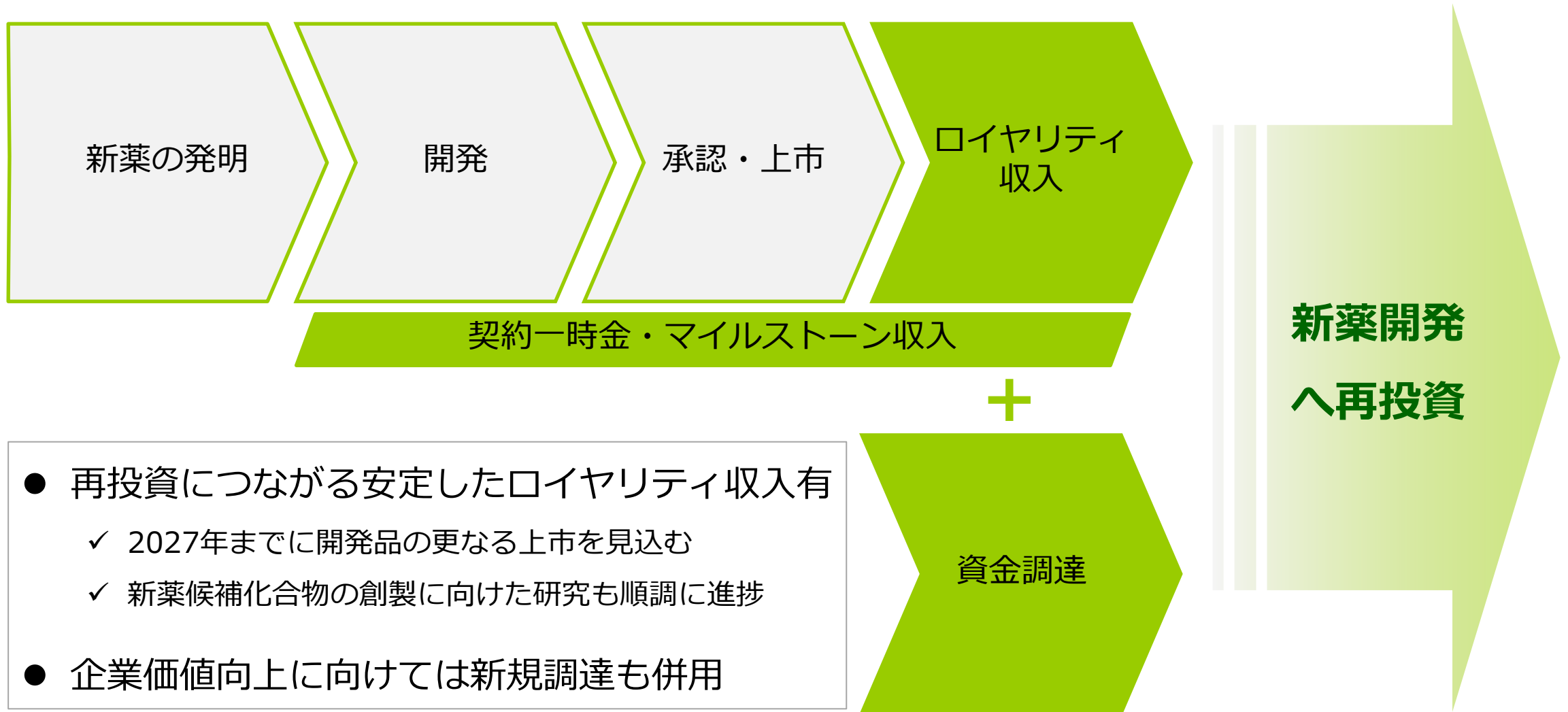
	2024年12月期	2025年12月期		主な要因
	通期実績	通期予想	対前期増減額	
売上高	471	400	△71	<ul style="list-style-type: none"> 主に、DW-1002、グラアルファのロイヤリティ収入を計上 DW-1002（日本）のマイルストーン収入等を見込む グラナテックの国内ロイヤリティ終了により減収見込み
営業損失	△1,209	△670	539	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発費は、H-1337、DWR-2206の投与完了により減少 その他販管費は、概ね前年並み
経常損失	△1,228	△680	548	
親会社株主に帰属する当期純損失	△1,290	△680	610	
研究開発費	1,367	760	△607	<ul style="list-style-type: none"> 主な内訳 <ul style="list-style-type: none"> H-1337のP3試験に向けた開発費用（毒性試験、治験薬製造etc） 新薬創出に向けた研究費用（自社創薬・共同研究）は前期比増加

開発パイプラインの進捗計画

パイプラインの名称等		地域	2024	2025	2026	2027
H-1337	緑内障治療剤	米国	P2b		P3準備及びライセンスアウト活動	
K-321	フックス角膜内皮変性症	米国		P3	申請 ※2026年以降	
DW-5LBT	帯状疱疹後の神経疼痛	米国		再申請	承認	上市
DW-1001	眼科用治療剤	日本		開発計画未定	※ライセンスアウト先のロート製薬の方針により、今後の開発計画を検討中	
DW-1002	内境界膜染色	中国	申請	承認	上市	
	内境界膜染色 水晶体前嚢染色	日本		申請	承認	上市
	内境界膜及び網膜上膜染色	米国		申請準備	申請	承認 上市
DWR-2206	水疱性角膜症	日本	非臨床	P2	P3	申請
		中国			臨床試験 ※2025年から臨床試験の開始を計画	

※上記計画は、ライセンスアウト先が想定する開発計画もしくは当社予想に基づく開発計画であり、実際の開発進捗と相違する可能性があります。

当社の継続した成長サイクル



借入・資金調達の状況

借入の状況

実行残高（2024年12末）	借入枠（借入額）	資金使途	種別
90百万円	200百万円	神経疼痛治療薬「DW-5LBT」のマイルストーンの支払資金	コミットメント期間付 タームローン契約
405百万円	440百万円	再生医療用細胞製品「DWR-2206」の開発資金	コミットメント期間付 タームローン契約

✓ 眼科手術補助剤「DW-1002」の事業譲受資金の返済完了

その他の資金調達の状況


調達総額（2025年2月7日行使完了）	資金使途	種別
1,145百万円	<ul style="list-style-type: none">「H-1337」の開発資金創薬研究活動（共同研究を含む。）及び新規パイプライン獲得／開発推進に係る費用等社債償還資金（第1回無担保転換社債型新株予約権付社債）運転資金	第12回新株予約権

今後の資金ニーズ

- ✓ H-1337の次相の開発資金
- ✓ 新規創製品/パイプラインの獲得による開発資金等

(参考) 事業概要

会社概要・沿革

会社名	株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 (略称：DWTI (デューティー))
上場市場	東証グロース市場 (証券コード：4576)
事業分野	医薬品の創薬研究開発
資本金	1,203百万円
役職員数	32名 (連結)
事業拠点	本社：愛知県名古屋市 開発研究所：三重県津市 (三重大学に産学官連携講座「臨床創薬研究学講座」設置)
連結子会社	日本革新創薬株式会社 

2024年12月末日現在

基礎研究特化	1999年	会社設立
	2006年	研究所の設置 (三重大)
	2009年	株式上場 (現：東証グロース市場)
事業領域拡大 -自社開発実施 -他社とのコラボ	2014年	自社品の国内上市 
	2015年	他社品 (開発品) の導入開始
	2018年	自社で臨床開発開始
	2022年	再生医療品の共同開発開始



事業ハイライト

4

- 上市品は4製品保有
- 開発後期品（P3以降）は5品目保有

<当社の事業>

創薬

自社創薬

- ✓ 独自の化合物ライブラリーから効率的に成功確率の高いキナーゼ阻害剤を創製
- ✓ 他社とのコラボレーションを推進し、新たな新薬の種を創製

育薬

臨床開発

- ✓ 自社で臨床開発の実施（ヒトにおける有効性・安全性の評価までを行う）

事業開発

- ✓ 自社創製品、導入品のライセンスアウト活動
- ✓ 導入は、開発後期品、リポジショニング品を検討

1,500

- 当社の化合物ライブラリーにあるキナーゼ阻害剤の数は、約1,500個
- キナーゼ阻害剤のパイオニア

7

- 導出実績は7品目
- 他には、自社開発（共同開発含む）が3件

新薬を生み出す基盤技術

- ◆ 創薬エンジンとは、新薬を継続創出できる当社独自の基盤技術
- ◆ キナーゼとは、タンパクをリン酸化する酵素。過剰なリン酸化は様々な病気を引き起こす要因となる。
(キナーゼがタンパクの活性 (活動) をコントロール)

<創薬エンジン>

化合物ライブラリー

- ✓ 良質な新薬の種 (ネタ帳)
- ✓ 3つの上市された薬剤を含む

ドラッグデザイン

- ✓ ライブラリーの化合物から新規品を作る力
(経験、データ)

ドラッグウエスタン法

- ✓ 新薬の作用メカニズム探索ツール
- ✓ メカニズムの推定により価値向上 (安全性、効果の要因を推定)

<キナーゼ阻害剤の可能性>

多様な適応疾患

- ✓ キナーゼは様々な疾患において重要な働きを担う
- ✓ 抗がん剤が主流。免疫系、神経変性系、炎症系などの開発検討も進む

大きな市場規模

- ✓ キナーゼ阻害剤の年間販売額合計は2兆円以上

当社はキナーゼ阻害剤のパイオニア

- ✓ 世界初のキナーゼ阻害剤は1995年に発売されたファスジル
(当社化合物ライブラリーにも含まれている)



「日本発の画期的な新薬を世界へ」

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
D. WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の結果は事業環境の変化等の様々な要因により、将来見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社はかかる情報の正確性、適切性等について検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所